

生活と政治をつなぐ情報紙

# 生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.255

2012.12.1

※毎月1回1日発行  
※1994年5月23日第三種郵便物認可

■発行 東京・生活者ネットワーク  
■〒160-0021  
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階  
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274  
■Eメール tokyo@seikatsusha.net  
■ホームページ http://www.seikatsusha.net  
■発行責任者 山口文江  
■定価 年間1000円・1部100円  
■郵便振替口座 00130-3-18417

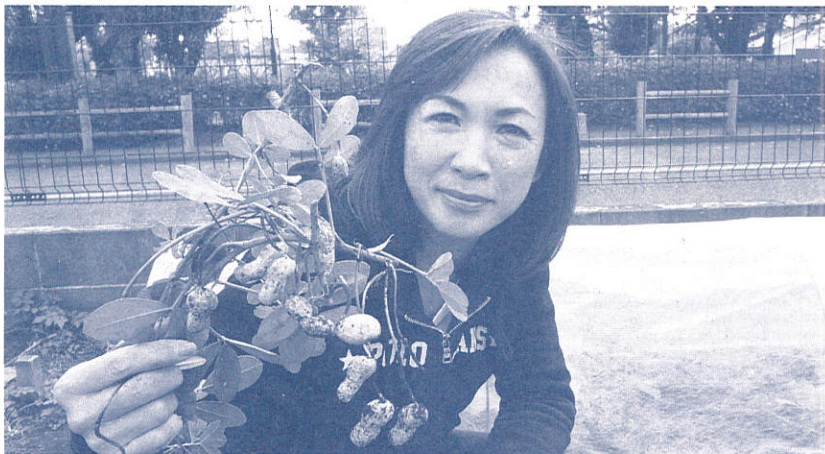
**都** 都議会第4回定例会、12月6日まで。  
東京都知事選挙、11月29日告示、12月16日投・開票。東京都議会議員補欠選挙(世田谷区、葛飾区、八王子市)、12月7日告示、16日投・開票。2013年度各党予算要望。

**ネット** ●練馬 学習会・放射能から子どもを守る～福島の実状を知り、内部被曝について学ぶ～ 12月15日(土) 14:00～16:15 練馬文化センター3階集会室(西武池袋線・都営大江戸線練馬駅北口) 講師:山崎久隆さん、黒部信一さん 参加費300円  
●大田 市民が学ぶ政治塾・市民が取り組むエネルギー政策 12月22日(土) 18:00～20:00 大田・生活者ネットワーク事務所(蒲田駅、京急蒲田駅) 講師:山崎求博さん 参加費300円

少子高齢社会を支える市民事業や被災地支援活動などNPOや市民団体がきめ細かに活動する分野が年々広がりをみせる中、生活者ネットも応援している「福島とつながる種まきプロジェクトネットワーク」が、第7回マニフェスト大賞で、審査員特別賞を受賞。生活者ネット設立当初から市民とともに、地域から実態をつくってきた新たな活動領域が「新しい公共」として市民権を得ようとしています。

東京・生活者ネットワーク都議会議員  
〔国分寺市・国立市〕

やまうち  
●山内れい子



有機栽培の農園で落花生を収穫する東京・生活者ネットワーク都議会議員の山内れい子

## 「新しい公共」が地域で動きだした

政権交代を転機に「新しい公共」円卓会議が内閣府に設置。2010年、「新しい公共」が宣言されNPOへの寄付税制の優遇制度が創設。並行して交付金を配分、各都道府県に推進のための基金が設置されました。

### 市民が支え合い、協働する場を広げる

東京都でも2011年度から「新しい公共」の場づくりのための「モデル事業」の募集が開始。助成金交付期間は2年間、NPOや市区町村が実施主体であること、多様な担い手が参画することが条件です。行政は場所も情報も豊富に持つ一方で、NPOなど市民団体はニーズに敏感で、柔軟に動くことが強みです。

私は以前から国立のまちづくりなどの市民活動に関わってきました。学校や企業なども含めて複数の構成団体が協働する「新しい公共」を広げることは、市民団体にとっても力をつけるチャンスです。国立市では、「相談や地域

のたすけあい機能を持つコミュニティカフェ事業」「NPOや市民活動団体の経営強化支援事業」地域の社会教育機関と創業支援機関との橋渡しを担うNPOインキュベーション事業」「福島県の農業者・商業者・高校生支援と農地を活用して市内避難者と交流する事業」が都の助成対象となりました。

4つ目の福島支援事業は、数少ない震災支援枠での助成となった「福島とつながる種まきプロジェクト」です。種まきネットと協働する団体は多彩で、主な事業は、福島の高校生の保養・学習の場の提供、市内の農園で避難者と種をまき収穫する野菜づくりと交流です。

### 「種まきネット」、マニフェスト大賞・特別賞に

11月、種まきネットがマニフェスト大賞・審査員特別賞を受賞しました。早稲田大学マニフェスト研究会が主催する7回目となるイベントで、今回も自治を強く意識し、自由で新しいアイデアを

ジョン化、目標を設定し実行に移している議員・議会・首長・市民ら1889人が応募。審査員特別賞は福島で育った女優・秋吉久美子さんから授与されました。秋吉さんは、種まきネットが福島の人たちから学ぶ双方向の支援を続けていることを評価。種まきネットが運営する「てくてく農園」は、国立市産業振興課が仲介して農家から借り上げたもので、事実、農園に関わる約10人の被災者は農業経験がある人も多く、農園はまたたくまにハーブと野菜で溢れ、近隣住民に収穫物を配るなど農園を拠点にした交流がくり広げられています。

「新しい公共」を推進することは、これまでの大企業優先社会から市民的合意を優先する市民社会へと転換する大きな一歩です。経済産業優先社会が帰結するところから福島原発事故があったことや、福島の実状を伝える手だてが間に追いやられそうになっている今だからこそ、種まきネットが選ばれた意味は大きいのだと思います。

「新しい公共」を推進することは、これまでの大企業優先社会から市民的合意を優先する市民社会へと転換する大きな一歩です。経済産業優先社会が帰結するところから福島原発事故があったことや、福島の実状を伝える手だてが間に追いやられそうになっている今だからこそ、種まきネットが選ばれた意味は大きいのだと思います。

\*1 福島県立小高商業高校生・福島県有機農業ネットワーク・福島大学生・いわきを支援する女たちの会・国立市産業振興課と市民協働課・恵泉女学園大学・都立第五商業高校生など

\*2 ローカル・マニフェストを対象に表彰する地域から自治を広げるためのイベント。審査員長:北川正恭早稲田大学教授/元三重県知事

## あんでな

### 希望をつくる市民ファンド、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)誕生 樋口蓉子

今の、そして未来の日本社会にあなたは希望を持っていますか? 多分、多くの方がNO!と応えられるのではないのでしょうか。でも、未来はつくり出さねばなりません。そしてそれは、行政や他のだれかに任せるのではなく、自分たち自身でふみ出すことが必要ではないでしょうか。

SJFは「社会正義」という視点から希望ある社会をつくる市民活動を応援する市民ファンドです。認定NPO法人まち

ぼっとの一部門として昨年11月に発足し、本年10月に第1回の助成を行いました。助成は「子どもの多様な学びの保障」「性的マイノリティの人権」「受刑経験者の社会復帰」などこれまでは対象にはなりにくかった、社会をよりよくする提案(アドボカシー)活動を選考しました。

SJFでは、これからこのような助成事業を行うため、募金や資産の社会活用をよびかけています。少額のサポーターから遺産・遺贈のご提供まで、SJFへのご寄付は認定NPO法人を生かした有利な税優遇を受けることができます。ファンドを大きく育て、希望ある未来を私たちがつくっていくために、皆さまのサポーター登録およびご寄付のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

〔認定NPO法人まちぼっと副理事長・SJF運営委員〕

▼2012年助成先3団体を発表した10.6 SJFフォーラムで。助成先のひとつ「多様な学び保障法を実現する会」との対話 SJFホームページアドレス: <http://socialjustice.jp/> お問合せ: TEL 03-5941-7948 info@socialjustice.jp

